

公開講演: 舞踏と「阿修羅」

日時: 2019年1月22日(火) 10:40~12:10 (月曜授業日)

会場: お茶の水女子大学 本館 306 教室 聴講無料 (事前申し込み不要)



講師プロフィール

銚久奈緒美

MUKU Naomi

(舞踏家)

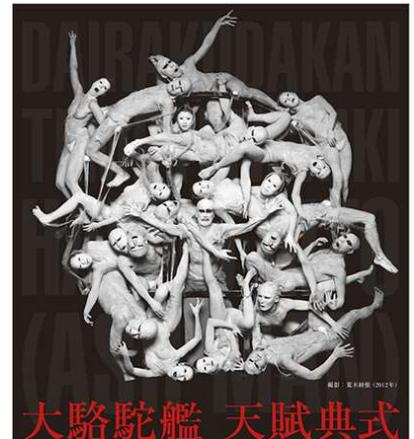
奈良県出身。幼少よりクラシックバレエを始める。お茶の水女子大学舞踊教育学コース卒業。在学中、大駱駝艦・白馬村夏季合宿に参加を機に2005年、大駱駝艦入艦。以降大駱駝艦全作品に出演。2007年大駱駝艦夏季合宿のドキュメンタリー映画「裸の夏」のポスター、チラシに金粉を塗った全身写真が使用され話題を呼ぶ。大駱駝艦スタ

ジオ「壺中天」で継続している壺中天公演へも出演し、振付・演出・美術・出演を担った作品には、2008年『ヤマウマレビト』、2011年『日月花』、2010年『白鳥湖』2015年『阿修羅』がある。宮本亜門演出『耳なし芳一』、野村萬斎演出『神なき国の騎士』、杉原邦生演出『やわらかなかぐら』、小野寺修二演出『ドンキホーテ』、映画『あゝ、荒野』出演。第47回舞踊批評家協会新人賞受賞。ジャンルを問わず、各方面から注目されている舞踏家である。

本講演では、実演と講演を通して、舞踏そして「阿修羅」に込めた思いを熱く表現していただきます。皆様のご来場をお待ちしております。

大駱駝艦 (だいらくだかん)

1972年創設。磨赤兒(まるあかじ)主宰。その様式を天賦典式(てんぷてんしき:この世に生まれ入ったことこそ大いなる才能とする)と名付け常に忘れ去られた「身振り・手振り」を採集、構築し多数の作品を上演。一般の人を対象にしたワークショップ「無尽塾・むじんじゅく」、夏は長野県白馬村において合宿を実施している。磨赤兒は奈良県桜井市出身。役者としても映像、舞台で活躍中。舞踏批評家協会賞、文化庁長官賞表彰、ダンスフォーラム賞・大賞、東京新聞制定「第64回舞踊芸術賞」などを受賞。



『阿修羅』

2015年9月初演。2017年11月フランス・パリ日本文化会館にて再演。奈良・興福寺の阿修羅像をテーマに、創造神として生まれた阿修羅が、終わることのない戦争の神として修羅場を経て最終的になぜ奈良の興福寺のような穏やかであるが憂いを帯びたあの表情に辿り着いたのか、その旅路を巡る作品。

*LA科目「舞踊における色・音・香」の履修者は、本講演に出席しレポートを提出することにより授業の出席として認められます。今年度の公開講演は、今回が最終回となります。問い合わせ先: お茶の水女子大学 文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学コース准教授 中村美奈子 nakamura.minako@ocha.ac.jp